

子規研究権威 初代博物館長

故和田氏蔵書公開

あすから松山 文学・歴史計3.5万冊

俳人正岡子規研究の第一人者で、松山市立子規記念博物館の初代館長を務めた故和田茂樹氏（1911〜2008年）の蔵書などを公開する図書スペース「湯の山文庫」が松山市末町の宿泊施設「奥道後湯の守」に整備され、20日から一般公開される。文学や歴史関連資料も随時公開され、愛媛を代表する国文学者が生涯をかけて収集した資料が活用されることになった。



故和田茂樹氏の遺品の展示作業をする小椋浩介さん

18日午後、松山市末町



故和田 茂樹氏

和田氏は松山市出身で京都帝国大卒。京都第一中学校教諭、愛媛師範学校教授、愛媛大教授などを歴任。連歌、民謡研究のほか、1951年の「子規五十年祭」を機に本格的に子規研究を始めた。75年から78年にかけて刊行された「子規全集」（全25巻、講談社）の編集委員として新資料を多数発掘。精緻な仕事が高く評価された。81年には子規初代館長に就任、96年3月の勇退まで同館の発展に尽くした。

「湯の山文庫」は和田氏の親類に当たる古美術商小椋浩介さん（55）に松山市持田町3丁目IIが開設した。子規関連や日本文学、歴史などの書籍など約1万5千冊を公開。「湯の守」利用者が無料で閲覧できる（利用者以外は事前申し込みが必要）。蔵書は約3万5千冊あり、定期的に入れ替える予定。

20〜31日は開設記念展を開催。和田氏の学生時代のノートや子規博物館長時代の日誌、子規在籍当時の新聞「日本」、創刊号から千号までそろえていた俳誌「ホトトギス」の一部のほか、江戸時代から現代までの文学や歴史関係の古書、子規ゆかりの人物の書簡、道後温泉の史料など約600点を展示する。和田氏を「カッパ先生」と慕った教え子たちの手紙も公開し、同氏の幅広い探求心や教育者としての人柄をしのぶ構成となっている。

点の遺品を保存活用を目的に購入。「湯の守」の坪内洋輔社長（46）に保管と公開場所の提供を依頼し、文庫開設が実現した。

小椋さんは今後、財団法人を設立し、資料の本格的な調査や活用を図る考え。「和田先生は、瀬祭（だっさい）書屋主人と名乗った子規と同じで、膨大な資料を集めてすべて残している。整理・調査は大変だが貴重なものが多く、後世に伝えなければいけない」と話している。典々さんは「父が生きていればこういふことをしたいと考えたはず。活用していただけるようになってありがたい」と喜んでいる。（江頭謙）

コケット「イプシロン」

